

スリーアール(3R)で笑顔になあ〜る



3R推進北海道大会2009

実施概要

- 開催日／2009年10月18日(日) 10:00～17:00
- 会場／サッポロファクトリー(ファクトリールーム・アトリウム)
札幌市中央区北2条東4丁目

主 催：環境省北海道地方環境事務所
共催・後援：経済産業省北海道経済産業局/農林水産省北海道農政事務所/北海道/札幌市
協 力：3R活動推進フォーラム

開催概要	1
進行プログラム	3
ご挨拶	4
平成21年度北海道ゼロ・エミ大賞	5
基調講演	7
「容器包装ごみを減らすためにできること」	
講師：3R推進マイスター 和田 由貴 氏	
事例発表①	11
「ラッキーピエロの環境にやさしい経営」	
発表者：(有)ラッキーピエログループ 代表取締役社長 王 一郎氏	
事例発表②	13
「百貨店の容器包装の現状と百貨店の立場からのエコ提案の考え方」	
発表者：(株)札幌丸井今井 総務部 中西 弘行氏	
事例発表③	15
「もったいない」を北海道から世界へ	
デザインを切り口に環境を分かりやすく 2006～2009	
発表者：有限会社叶多プランニング 代表取締役 平塚 智恵美氏	
事例発表④	17
「パッケージにおける環境配慮について」	
発表者：凸版印刷株式会社 北海道事業部	
技術開発部 開発課長 佐々木 永久也氏	
パネルディスカッション	19
コーディネーター	
(有)ボイスオブサッポロ 代表取締役 橋本 登代子氏	
パネリスト	
3R推進マイスター 和田 由貴 氏	
(有)ラッキーピエログループ 代表取締役社長 王 一郎 氏	
(株)札幌丸井今井 総務部 中西 弘行 氏	
(有)叶多プランニング 代表取締役 平塚 智恵美氏	
閉会挨拶	25

開催概要

スリーアール(3R)で笑顔になあ〜3 3R推進北海道大会2009

平成21年度3R推進月間関係機関連携事業

- 開催日／2009年10月18日(日) 10:00～17:00
- 会場／サッポロファクトリー(ファクトリールーム・アトリウム)
(札幌市中央区北2条東4丁目)
- 主催／環境省北海道地方環境事務所
- 共催・後援／経済産業省北海道経済産業局 / 農林水産省北海道農政事務所 / 北海道 / 札幌市
- 協力／3R活動推進フォーラム
- 参加者数等／「講演会」参加者数 延べ229名 「もったいなaRt展」展示・体験コーナー 参加者数 延べ989名
「レアメタルリサイクルコーナー」回収数 87台(うち携帯電話 35台・小型家電 52台)

プレキャンペーンイベント

- 1) 日時 平成21年9月28日(月)～10月2日(金)9:00～17:00
会場 札幌第一合同庁舎 1階ロビー(札幌市北区北8条西2-1)
- 2) 日時 平成21年10月5日(月)～10月9日(金)10:00～20:00
会場 紀伊國屋書店 札幌本店 1階インナーガーデン
(札幌市中央区北5条西5-7 sapporo55ビル)
- 3) 日時 平成21年10月11日(日)～10月17日(土)10:00～20:00
会場 サッポロファクトリー2階南側回廊スペース(札幌市中央区北2条東4)

- 内容／展示コーナー(3R関連パネルコーナー・3R関連イベント紹介コーナー)
レアメタルリサイクルコーナー ※10月9日 紀伊國屋書店のみ
(使用済み携帯電話回収コーナー〈回収数 6台〉 / 小型家電回収コーナー〈回収数 7台〉
/レアメタル関連展示コーナー)

※この報告書では、本大会で開催した行事における発表内容等を要約して掲載しました。



アトリウム会場全体



3Rオリジナルアート実演

イベント全体



3Rオリジナルアート体験



3Rリサイクルアート体験教室



3Rエコ体験コーナー



レアメタルリサイクルコーナー

イベント全体



講演関連展示コーナー



講演会入口

ステージ



講演会時



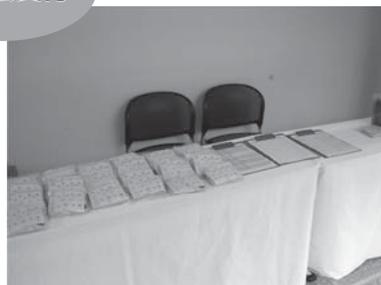
パネルディスカッション時

控室打合せ状況



講演会受付

配布資料



講演会進行プログラム

時間	次第	内容
11:00	開会	
11:01	開会の挨拶	環境省北海道地方環境事務所 所長 吉井 雅彦
11:05	平成21年度 「北海道ゼロ・エミ大賞」 表彰式	<p>【贈呈者】 ・北海道環境生活部環境局 局長 原口 忍</p> <p>【受賞者】</p> <p>1.〈大賞〉 道栄紙業株式会社 グリーンセイビング マネージャー 平井 純一 様</p> <p>2.〈優秀賞①〉 サッポロビール株式会社 北海道工場 工場長 二渡 整 様</p> <p>3.〈優秀賞②〉 丸利伊丹車輛株式会社 代表取締役 伊丹 和雄 様</p>
	贈呈者挨拶	北海道環境生活部環境局 局長 原口 忍
	受賞者代表挨拶	〈大賞受賞者〉 道栄紙業株式会社 グリーンセイビング マネージャー 平井 純一 様
11:25	基調講演	「容器包装ごみを減らすためにできること」 講師：3R推進マイスター 和田 由貴 氏
12:20	事例発表 「容器包装削減の取り組み」	
	事例発表①	「ラッキーピエロの環境にやさしい経営」 発表者：(有)ラッキーピエログループ 代表取締役社長 王 一郎氏
	事例発表②	「百貨店の容器包装の現状と百貨店の立場からのエコ提案の考え方」 発表者：(株)札幌丸井今井 総務部 中西 弘行氏
	事例発表③	「もったいない」を北海道から世界へ デザインを切り口に環境を分かりやすく 2006～2009 発表者：有限会社叶多プランニング 代表取締役 平塚 智恵美氏
	事例発表④	「パッケージにおける環境配慮について」 発表者：凸版印刷株式会社 北海道事業部 技術開発部 開発課長 佐々木 永久也氏
14:30	休憩	
15:00	パネルディスカッション	「容器包装のリデュース・リユースをさらに推進するには・・・」 コーディネーター：(有)ボイスオブサッポロ 代表取締役 橋本 登代子氏 パネリスト：3R推進マイスター 和田 由貴 氏 ：(有)ラッキーピエログループ 代表取締役社長 王 一郎 氏 ：(株)札幌丸井今井 総務部 中西 弘行 氏 ：(有)叶多プランニング 代表取締役 平塚 智恵美氏
	質疑応答	
16:00	閉会の挨拶	環境省北海道地方環境事務所 統括環境保全企画官 竹安 一
16:03	閉会	

御挨拶

皆さんおはようございます。ただ今、御紹介いただきました環境省北海道地方環境事務所長の吉井でございます。

本日は日曜日にもかかわらず、御参加いただき誠にありがとうございます。主催者を代表いたしまして、心より御礼申し上げますとともに、開催に当たり一言御挨拶申し上げます。

毎年10月は3R推進月間です。

御案内のとおり、わが国では依然としてごみの排出量が、年間6億トンという高い水準で推移しております。豊かで便利な生活を追求した結果の大量生産、大量消費、大量廃棄という、いわば「一方通行型社会」は、他方、膨大なごみを排出し、ごみの最終処分場のひっ迫や天然資源の減少、不法投棄の増加など、水や空気、みどりといった、かけがえのない私たちの環境をむしばむ、深刻な問題を引き起こしてしまいました。さらに、ものや資源が国境を越えて行き来する現代では、ごみの問題もまた地球規模の問題となっております。

これら様々な問題を解決し、今の豊かな社会を維持し、将来世代にも引き継いでいくためには、社会経済の在り方やライフスタイルを見直して、天然資源の消費を抑え、環境への負荷を減らした「循環型社会」への転換を図っていくことが、差し迫った課題となっております。ごみの発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)という「3R」の取組を、国、地方公共団体、事業者のみならず、国民一人ひとりが努力を積み重ね、かけがえのない地球のために、資源の有限性を考えた、持続可能な社会を構築していくことが、今何より求められています。

環境省でも、このような努力が国民全体の運動となるよう取り組んでいるところであり、3R推進月間である今回は、全国的に様々な行事を展開しています。

本3R推進北海道大会も、昨年に引き続き、北海道経済産業局、北海道農政事務所、北海道、札幌市などの御協力のもと、循環型社会の構築に向けての知識や経験を交換し、参加者一人ひとりが自らのライフスタイルを見直す機会にさせていただこうと開催しました。

内容は大きく分けて「講演会」、「展示・体験コーナー」、「レアメタルリサイクルコーナー」の3つに分かれています。

まず「講演会」については、昨年はレジ袋の削減を取り上げておりましたが、今年はさらに一歩進めて容器包装全般に関するリデュース、リユースを取り上げることとしました。

3R推進マイスターの和田由貴様の基調講演をはじめ、道内で容器包装削減の先進的なお取組をされている方々に、お話をして頂きます。和田様をはじめ、お話を頂く方々には、大変御多忙のところご都合をつけていただきましたことを、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

ところで、先日内閣府の世論調査において「3R」という言葉を聞いたことがないと回答された北海道民の方は40%もおられるという結果が出ておりました。まだまだ知名度の少ない「3R」という言葉を、少しでも多くの方々に知っていただくきっかけを考えたのが、この「3R」を実際に見て・触って・作って体験できる「展示・体験コーナー」です。

また、昨今レアメタルという言葉を目にする機会が増えていますが、捨てられる家電製品には貴重な資源であるレアメタルが大量に含まれており、環境と経済の両立などの観点から、レアメタルのリサイクル分野には大きな期待が寄せられています。そこで、容器包装など他の資源に比べて回収の取組みが進んでいない小型家電のリサイクルについて、「レアメタルリサイクルコーナー」と銘打って設置し、関連展示や使い終わった携帯電話や小型家電の回収を行っております。

さらに、このあと北海道ゼロ・エミ大賞表彰式が行われます。大賞に選ばれた道栄紙業株式会社様をはじめ、受賞されます皆様には心から敬意と祝意を表しますとともに、今後とも循環型社会の構築に向けて先導的な役割を果たされますよう期待申し上げます。

最後になりましたが、本大会を契機といたしまして、改めてごみの減量化、循環型社会の形成に向けての取組みが進み、いま以上に環境の良い北海道が次の世代に残せるよう祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



環境省北海道地方環境事務所
所長 吉井 雅彦

平成21年度北海道ゼロ・エミ大賞

(主催)
北海道環境生活部

北海道ゼロ・エミ
大賞

道栄紙業(株) (倶知安町)

製紙メーカーから排出される残渣物の再資源化によって出来た多目的環境資材の製品化

再生紙を製造する際に排出されるペーパースラッジを、独自の技術により炭化させることにより多目的環境資材として製品化する取組。

北海道ゼロ・エミ
優秀賞

サッポロビール(株) / 北海道工場 (恵庭市)

再資源化100%継続

工場敷地内から排出される副産物・廃棄物の再資源化に平成6年から取り組み、平成10年6月に再資源化100%を達成し、今年で11年目を迎えている。

北海道ゼロ・エミ
優秀賞

丸利伊丹車輛(株) (北広島市)

使用済解体自動車の全部再資源化への取組

自動車解体作業において、精緻な解体・素材分別等の独自の前処理工程を構築したことにより、作業時に排出される廃棄物であるシュレッダーダストのリサイクル率を上げる取組。

北海道ゼロ・エミ大賞表彰制度

■北海道ゼロ・エミ大賞とは

道内の事業所における廃棄物等の発生・排出抑制の取組の中で、特に優秀なものを表彰し、広く紹介する制度です。循環型社会の形成に向けて道が推進している「3R(リデュース、リユース、リサイクル)」のうち、特に優先すべき事項であるリデュースを推進することを目的に、平成17年度に創設しました。

■制度の概要

募集期間に申請のあった取組について、「北海道ゼロ・エミ大賞選考委員会(学識経験者等で構成)」において、取組による発生・排出抑制の効果や他の事業者への普及性などの観点から選考を行い、道が受賞者を決定します。表彰については、毎年度、大賞1件、優秀賞3件程度としており、表彰された取組については、表彰式の実施、道が発行する3Rハンドブックへの事例掲載、ホームページでの公表などの積極的なPRをすることとしています。

■北海道ゼロ・エミ大賞のホームページ

http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/jss/recycle_2/zero-emi/index.htm



表彰式全体風景



表彰式全体風景



受賞三社の皆様



道栄紙業(株)様



サッポロビール(株)／北海道工場様



丸利伊丹車輛(株)様



受賞者挨拶



贈呈者挨拶

基調講演

『容器包装ごみを減らすためにできること』

3R推進マイスター／環境カウンセラー

和田 由貴 氏



私は3R推進マイスターという仕事を環境大臣から委嘱されて活動しております。ごみの減量とか分別、容器包装のリサイクルなどの推進を啓発していく仕事です。本日も容器包装ごみの減量についてお話をさせていただくのですが、節約とか家事の知恵といった情報発信の仕事しておりますので、身近な話題を中心にしようと思っております。

こちらに「省エネとごみの減量」とあります。

省エネとごみの減量 <ul style="list-style-type: none">温度調節で減らそう電気の使い方減らそう商品の選び方で減らそう水道の使い方減らそう買い物とゴミで減らそう自動車の使い方減らそう <p>チームマイナス6%です</p> <p>チームマイナス6% http://www.team-6.jp</p>	ごみ減量の効果 <ul style="list-style-type: none">海面上昇異常気象生態系変化熱帯性の伝染病の蔓延食糧危機 <p>ごみを減量することは...</p> <ul style="list-style-type: none">処分場に関する問題の解消生産時にかかる資源の節約処分時にかかるエネルギーの節約
---	---

京都議定書では、6%の温室効果ガス削減の推進が提唱されました。暮らしの中で温室効果ガスを具体的に減らしていくということは、温度調節や電気の使い方減らすなど、まずは省エネがあると思うのです。そして大事になるのが商品の選び方、買い物とごみで減らそうといった物の選び方とかごみの減量というところも不可欠であると言われています。温室効果ガスが増えると海面上昇とか異常気象などの引き金になるようなことが言われております。

ごみの減量をする 것도温室効果ガスを減らす効果のほかに処分場問題の解消や生産時にかかる資源の節約にもつながってくる。また、処分時にかかるエネルギーの節約にもなります。具体的に私たちが温室効果ガスを減らすごみ減量をどのようにしていけばいいかという今回のイベントのテーマでもある3Rということです。これはリデュース、リユース、リサイクル。このRの頭文字3つをとって3Rなんです。

リサイクルは、ごみとなってしまったものを資源として再利用する。再資源化するということです。例えば分別回収されたペットボトルが別のものに生まれ変わるといえることですね。リユースはまだ使えるものを再使用することですので、リサ

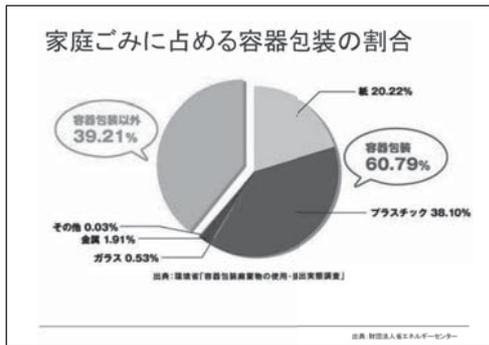
イクルショップにあるようなものがそれに当たります。3つ目のR、リデュースとありますが、3つのRの中では一番聞きなれないのがリデュースではないかと思いますが、実は一番気をつけなければならない、一番重要なのがリデュースです。これは、ごみになるものを買わない、選ばない。発生を抑制しようということなんです。



これは、「地球の食卓」という写真集で、いろいろな国のいろいろな食卓事情を集めた写真を載せています。見ていただくとやはり我々日本人とは食べ物の好みが違うこと、お国柄が見える面白い写真です。国によつての違いが分かると思いますが、食べているものの内容だけでなく日本と他の国の決定的に違う部分があります。お分かりですね。容器包装がすごいですね。非常に特徴的なのは野菜や果物です。他の国で、これらがパックに入っていたり袋に入っていたり、トレーに乗っていたりというようなことはなかったと思います。

もちろん流通の面や気候の面から、例えば葉物野菜の乾燥を防ぐためとかの事情でどうしても包まなければならないというものの中にはあると思うのですが、そうだけではなく過剰に衛生的に好む環境が日本人にはありますので、そうしたことで過剰包装になっているところもやはり否めないのではというところなんです。

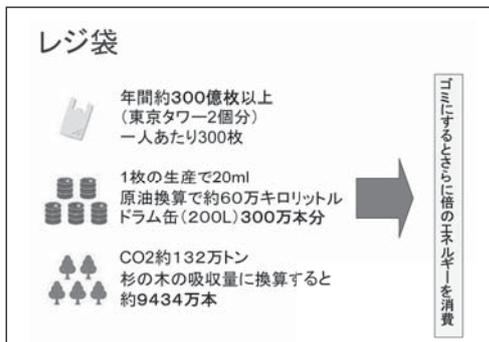
やはり、これらのことで包装容器がごみの中に占める割合というのが日本では非常に多いのです。



こちらのグラフですが、家庭ごみに占める容器包装の割合で、全体100%あるごみの中で容器包装以外の部分はたった4割しかありません。それ以外の6割は全部包装容器のごみだそうです。

そのなかで、プラスチックだけで4割近くを占めています。北海道でもプラ容器の分別が始まっていると思いますが、分別し始めてびっくりするくらい容器包装が多いと思われたのではないかと思います。容器包装だけを分別してみると、やはりものすごい量なんです。容器包装ごみを減らしていくというのは非常に大きな課題になっています。

容器包装を生産するために使われるエネルギーを具体的に示すのにレジ袋を一例にして説明します。



年間300億枚以上が日本国内で使われているそうです。この数字は詰め込んだ状態にしていくと東京タワーの2個分の量になるそうです。1人当たりになると年間300枚も使っているそうです。ものすごい数という感じだと思います。この生産されるために使われるエネルギーというのが1枚で原油20ミリリットルとあります。電気に換算して60ワットの白熱電球を1時間付けばなしにするのと同じだけになります。

よくレジ袋を減らしてもそれほど省エネにならないという方がいますが、電気を1時間付けばなしにするのと同じくらいということは、かなり大きな省エネにつながってくるのではないかと思います。ということがお分かりいただけたと思います。

このレジ袋をできるだけ減らしていきましようということで全国各地でいろいろな運動や活動がありますが、北海道でも結構盛んだという話を聞いています。普段から小さく折りたためるような

エコバッグを持っていると随分違うかなと思います。そういう習慣をつけるといいと思います。私は普段、小さくなるタイプのエコバッグを使っています。

こうしたものは義務感というよりも、持っていたほうが生活が快適になるとか、使いやすいとかいう意識から持つというのもすごく大事ではないかと思っています。レジ袋より便利だし持ちやすいし、かわいいし、いいんじゃないという感じで取り組んでいただいていると思います。それでレジ袋を絶対に貰わないということではありません。必要最低限の場合もあるのではないかと思います。そうした場合は使っていただいているかと思っています。過剰には貰わないということです。そうした意識でいいかと思っています。

ペットボトル

- 1本生産するために必要な原油は約60cc
- リサイクルするためにもCO2は排出される
- 1本130円→1ヶ月毎日買ったら約4000円
- ゴミになる+スマートじゃない

マイタンブラーが断然ロハス的！

マイタンブラーでお茶を楽しもう

- 緑茶、紅茶、フレーバーティー、ハーブティー
- みんな「水出し」でOK！

ペットボトルもそうです。飲み物のほとんどがペットボトルで売られていますが、これもやはり容器包装にあたります。これも1本生産するために原油60ccということでレジ袋の約3倍です。60ワット電球を3時間付けているのと同じで、かなりのエネルギーが生産に必要ということになります。きちんと分別してリサイクルしてさえいけばいいかという、そういうわけでもないのです。ですから、ここでもリデュースということではないかと思っています。おすすめなのがマイタンブラーです。しゃれた呼び名になりますが、水筒です。これを是非、持っていただき、ペットボトルを買うのをすべて止めてくださいというのではなく、買わなくて済むものだったら買わないほうがいいのではないかと思います。

最近買う人が多いのは水です。水道水を飲むのが嫌だからペットボトルを買って使う人が結構い

ます。嗜好品として水の味を楽しむのに買うのならいいと思いますが、安全面、健康面ことを考えてやはり水道水はよくないからペットボトルの水を買うというのは今すぐやめたほうがいいと思います。安全面を心配してペットボトルの水を買っているのであれば、これは水道水のほうが安全だし安心して飲めるということです。是非、水道水を信頼していただいていいと思います。お茶やコーヒーにも安心して作っていいと思います。

結局、ごみを減らすということは、まだ使えるようなものはリユースをする。

そして積極的に分別、リサイクルをする。この辺ももちろん重要なんですが、やはりいちばん最初に大事なのはリデュースということをお話しました。ごみになるものを買わない貰わないということは、入り口から見直すことになります。

ひいては節約にもつながってくるのではないかと思います。ごみ減量もできるし、ごみが減っていくということは、ごみ出しの手間も減るわけです。また、きちんと分別・リサイクルするというのも面倒ですが元々、ごみになるものが無ければその手間も省けるということで、生活の快適にもつながってくるのではないかと思います。

ですから、できるだけ買って来る時に簡易包装のものを選ぶ。

このむやみに貰わないというのは、タダだったら貰うという感じで、ごみになるものをむやみに貰ってしまいがちになるのですが、本当に必要かどうかをぜひ考えてものを選ぶことも大事かと思えます。

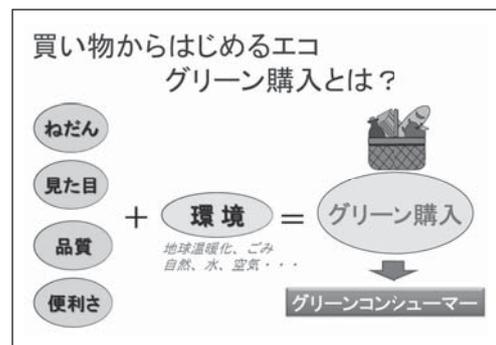
次に分別・リサイクルの徹底ということですが、このリデュース、リユースといっても限界があります。どうしても、むき出しでは売っていないものもありますし、いくら簡易包装とは言っても多少は容器包装がついているものもあると思いますので、こういったものはきちんと分別・リサイクルをするということが大事です。

容器包装プラスチックを分別する地域は洗ってしっかり分別とありますが、容器包装の中が汚れていたらきちんと洗って出すことが重要です。洗っても汚れが落ちない状態であれば、無理をして洗わずにごみとして捨ててしまうしかないと思いますが、さっと洗ってきれいになる程度の状態であれば、洗って出していただきたい。というのはリサイクルする段階に汚れているものが入っていると、不純物が混じるということで上質なリサイクルの原料とはならないのです。

3つ目に質量を減らすとあります。もちろん分別・リサイクルをしてもらうということですが、質量を減らすのも大事です。ごみ自体の質量を減らしていくというのは、ごみ自体が減るわけではなく容量だけが減っていくということで、ごみの減量にはつながっていないと思われそうですが、

実は、ごみの質量が減るとそれを運搬する時にかかるエネルギーなどの削減にもつながってくるので、やはり質量を減らすということも大事なんです。

具体例ですが、そのまま捨ててしまおうとかさばって、あっという間にゴミ袋がいっぱいになってしまうと思いますが、それを折りたたんだり丸めたりしてきちんとテープで止めるとこんなに小さくなります。このようにして捨てるか、他に容器包装ですと卵のパックなどもごみにいれるとかさばります。それもハサミで少し切って重ねてテープで止めたりするとこんなに小さくなります。これは1個1個バラバラにしてテープで止めているのですが、これくらい小さくなってしまくと、非常にたくさん袋にも入ると思いますので、ごみの質量もどんどん減っていくかと思えます。これをするためには、ごみ箱の近くにハサミとセロテープを置いておくと非常に便利です。私もそのようにしていますが、それでいつも止めて捨てるようにしています。



次に買い物から始めるエコ、グリーン購入とはと書いてあります。買い物の際は、やはり環境のことを少し考えることが非常に大切です。普通、物を選ぶときというのは値段や見た目、品質、便利さといったこと。食べ物でしたら美味しそうかどうかを考えて購入します。それだけではなくもう1つ、環境のことを考えてみましょう。これを買った時に、この製品は生産や流通時にどのような環境負荷を与えているかを考えたり、買った後はどうなっていくのか、廃棄する時にどうなっていくのかというようなこととか、買う段階でちょっと考えてみる。これをするをグリーン購入と言います。これをする人のことをグリーンコンシューマー、グリーン消費者と言います。是非、皆さんもグリーンコンシューマーになっていただきたいと思えます。

グリーン購入の基本的な考え方は、必要かどうかをきちんと考えて選ぶ。そして環境に優しいものを選ぶ。容器包装のことに限って言えば、できるだけ詰替製品を選ぶとか簡易包装の物を選ぶなど、環境に優しい物を選ぶ。また、包装容器がある場合も環境に配慮できている製品かどうかとい

うところを選んで買う。

次に、環境に優しい製品や取り組み、そういつたことをしている企業をできるだけ選択していくことがその企業を伸ばすことにもなりますし、結果として巡り巡って環境に優しい行動になるのではないかということです。

次に環境情報をよく見て買おうとありますが、やはり漠然とではなく、環境情報にも敏感になって、よく見て買おうということです。買い物をするという事は非常に身近にできるエコアクションの1つです。支持できる商品を購入とありますが、自分が買ってきて、これが環境に優しいというところだけではなく、それを購入することというのは結局その製品をたくさん世の中に普及させることにもなりますし、また、その製品を作っている企業を伸ばすことにもつながってきます。

環境によい商品、サービスが普及するかどうかは私たち一人ひとりの買い物行動にかかっているとありますが、その製品を選んだことで自分の家で環境に優しいということを実現できるだけではなく、その製品を普及させていくということも、買い物にはそういう意味もあるということ意識して買い物していただくということが大切だと思います。

また、ごみの減量ということは節約にもつながってくるようになります。節約にもつながるごみ減量ということで、6割以上の自治体では、ごみ有料化とあります。今は、もう7割くらいになっているようですが、日本国内で家庭ごみの有料化をしている地域はこれくらいになっています。札幌でも有料化が始まっています。ほとんどの自治体で有料化が進んでいるということで、ごみを出すということは、やはりお金もかかってくることで、これを減らすことが節約にもつながってくると思います。

私の住んでいるところでは、容器包装プラスチック40リットル36円ということで、普通のごみよりも少しは安いのですがお金がかかるのです。札幌は容器包装プラスチックは無料で回収するようですので、きちんと容器包装のものは分別して中はきれいに洗ったりして捨てるようにすれば、普通にごみの中に混入してしまうとお金はかかりますが、きちんと分別することでその部分も節約ができるということになると思います。

また、容器包装について、2割は紙の包装容器がごみに混入していることになっています。紙の包装容器もきちんと分別することでやはりごみとして捨てるとお金がかかりますが、分別すればそれも節約できます。古紙は札幌では雑紙として分別すれば資源として回収しています。

意外とよくあるのがお菓子やカレールーの外箱などは比較的簡単にたたんで雑紙として出せると思います。ストッキングの袋に入っている厚紙も

古紙として分別しましょう。ポイとごみ箱に捨てたくなるトイレットペーパーの芯とかラップの箱なども雑紙としてきちんと回収してもらおうと、かなり燃やせるごみの質量というのは非常に少なく済みますので、できるだけこういったところの分別をするのを意識すると、ごみにかかるコストも減らすことができるし、紙類をごみの中にいれてしまうとあっという間にごみの量が増えてしまいます。そうすると捨てる手間もかなり増えてしまいますので、それを減らすこともできるし節約、生活の快適にもつながってくると思います。

一番最初にリデュース、できるだけそういうものを選ばないことを考えるとともに、きちんと分別・リサイクルすることを考えていただければと思います。容器包装の減量で地球にも家計にもやさしい暮らし方、できることから始めてみましょうと書いてありますが、今のお話の内容は簡単なことばかりなので、すぐ取り組めることが多いと思います。できることから少しずつ始めてみたらと思います。

これは「3R学びあいブック」という本ですが、具体的に容器包装を減らすことでどんなことができるかや、風呂敷の使い方、古い傘を使ったエコバッグの作り方など面白い内容になっています。子供たちにも3Rのことを分かりやすく取り組んでもらおうということで、ゲームのカードなども入っています。

今日の話をごひ役立てていただければと思います。どうもありがとうございました。

事例発表①

『ラッキーピエロの 環境にやさしい経営』

有限会社 ラッキーピエログループ 代表取締役社長
王 一郎 氏



私は、人に自然にやさしい経営をしたいと思っています。私たちの会社はレストラン業をやっていますが、お客様に喜んで幸せになってほしいと思って商品を作れば作るほど一方ではごみを出してしまいます。私たちが1店舗の時にしていたごみよりも、今は14店舗になりましたから14倍になってしまいました。矛盾を抱えているわけです。私は世の中に迷惑をかけてしまうものを徹底的に減らしていきたいと、10年前から環境問題に取り組みました。最初は、ドリンクの紙カップを止めることからスタートしました。

環境問題の現状は、もう地球が悲鳴を上げているわけです。環境がおかしくなるということは、地球人の自給が大丈夫かという、大変な時代に直面しているとうことなんです。

その中で、私たちが自然に人に優しくありたいということで取り組んでいるのです。私たちはもっともっと優しい宣言、「体に心に地域にそして環境にやさしく」を合言葉にできることから行動しよう一歩一歩から。ラッキーピエロの小さな大きなテーマです。美味しいだけでは花マルではない。おいしさと安心、そしてそれをもたらしてくれる自然環境にもありがたい感謝をこめて大切のお返しをしましょう。これがラッキーピエロですという、もっともっとやさしい宣言に添ってもっともっと環境に取り組んでいこうと、取り組んでいるわけです。

私たちのごみのうち生ごみが30%です。これをNPO法人と組んで、生ごみをミミズに食べさせて堆肥化し、農家でその肥料を使ってニンジンやホウレンソウを作っています。だから、私たちは生ごみは1つも出していないわけです。ゼロです。もう1つ自慢は油です。揚げた後の油は、これは22年間やっていて全く排出していません。ラビットファームという障がい者施設へ運んで精製し、車やボイラーの燃料にしています。

今、函館で自らごみを捨てに行っているのは2社だけです。ラッキーピエロとプリンスホテルだけです。どういうことかという、分別の徹底をしています。再資源化のためには徹底的な分別を行わなければいけない。生ごみは一切ゼロ。缶、

金属はリサイクル会社に引き取ってもらっています。缶、金属、ペットボトルは私たちの仲間が集めて再資源化しています。段ボールは集めて古紙回収業者に貰ってもらっています。油は先ほど言いましたように精製してバイオディーゼルエンジンなどに使っています。1%のビンは函館市のリサイクルセンターで、リサイクルしてもらっています。だから45%の燃やせるごみは市の日の出工場へ運んで燃やしてもらっている。残りの15%の燃やせないごみは市の処分場で埋めてもらっています。私たちが持って行って分別を徹底しています。

私たちは、もっと活動を広げるのだということで、100人くらいで湯の川や上磯の海辺の清掃をしています。お客様も3割くらい参加します。最初は、ごみを集めても全然きれいになっていない。また次の年にやってもきれいにならない5、6年経ってやっと、ごみがなくなってきたぞということが分かりました。そうすると今度は函館の高校生が、自衛隊がやりだした。ライオンズクラブがやりだした。またたく間に湯の川の浜にごみがなくなりました。

私たちは今、植樹祭ということをして5回やり、750本の木を植えました。お客様がハシやスプーンを持ってきたら、「モリモリチュンチュン5コイン」というのを作って5円引きにし、それを寄付してもらいます。カレーを買うのに鍋を持ってきたら20円引きにして、それも寄付してもらおう。それらを集めて、函館市内のきじひき高原にブナの木を植えています。お客様が大体3割です。仲間、スタッフが7割です。ネットの情報で全国から参加者が来ます。

私は地産地消ではなく、「地産地食」と言っています。作る人も一生懸命いい物を作る。食べる人も一生懸命いい物を食べる。中国の言葉に「身土不二」というのがあります。これはその環境と生物とは一体になる。その環境で生産された物を食べると体にいい、長生きできるという思想です。これが地産地消の思想ではないでしょうか。地元の物、今まさに生きていたものを食べたいと思っています。「身土不二」の精神です。また、保存料を使わず、野菜は地元の方と組んで

減農薬栽培にしてもらっています。

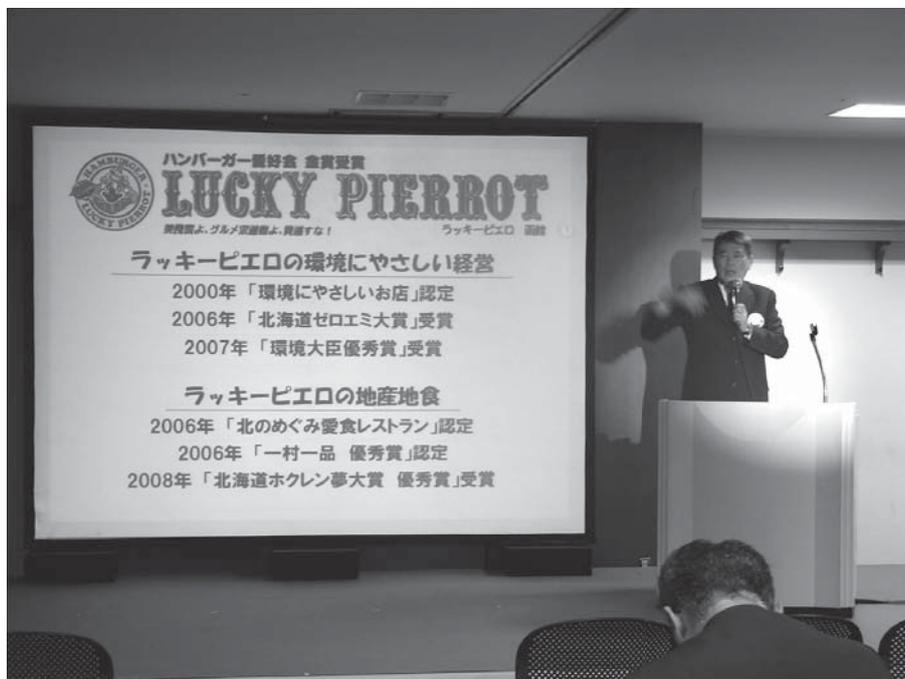
また、私共の新しい店では風力発電に実験的に取り組んでいます。あるテーブルは風力発電の電気を使っています。風を頂いてこの電気が付いて、その下で食事をしているわけです。自然の1つだという意識を持っていただきたい。

物を作るということ、環境に取り組むということは会社経営の促進要因だと思います。環境に取り組むことは、売上が上がることと思っております。環境は、ほとんどコストがかからないと思っております。仲間を募ってお互いにやって運動を起こしていく。

皆さんが環境取り組みの店からしか買わないと言ったら世の中は一度に変わります。ビニール袋1枚は9グラムのCO₂を削減します。自分が死ぬまでにCo2ゼロにしたい人は木を30本植えたら実現します。ラッキーピエロではまだ750本です。私も30本目標ですが、まだ7本くらいしか植えていません。あと23本植えるまで死ねない、でなければ世の中に迷惑かけたまま死んでしまうこととなります。

私は、ただ自分の会社をやるだけではおかしいから、環境について取り組んでいる人は皆集まろうと呼び掛けています。そして「環境函館エコ宣言」という環境フォーラムを2回やりました。大体200人くらいが参加します。そして、それぞれ環境に取り組んでいる会社や個人に発表していただき、それを皆でまねしましょうとやっています。これも次第に集まる人数が増えています。皆さんがハチドリのひとつずつを率先してやる事が多くのハチドリが生まれてくることだと思うのです。

是非、人に自然にやさしくありましょう。私たちは自然の取り巻きなくしては、1日も生きていけないのです。私たちは自然の加工物で家や店を作っています。自然がなければ1秒たりとも生きていられません。是非、この自然をもっともっと大事にして、そして私たちがバトンタッチする役として、いい状態で子供たち、孫たちに引き継いでいけたらどんなにいいだろうと思います。



事例発表②

『百貨店の容器包装の現状と 百貨店の立場からのエコ提案の考え方』

株式会社 札幌丸井今井 総務部

中西 弘行 氏



本日の話は、百貨店の容器包装の現状と百貨店の立場から我々は今どうしているかについてです。現状については効率化による削減、時代の流れで簡略化の2つ。エコ提案についてはリサイクルと結びつけた企画提案、包装紙にもファッションを、物を捨てない、すてきな物を長く持ちましょうというエコ提案の3点です。

効率化による削減と時代の流れで簡略化は、お気づきのおり要するにマイナスの要素を占めております。お客様皆様がエコの時代だから我慢しましょうということで、コスト効率、企業にとって今までたくさん使っていたものが急に少なくなるわけですからメリットは非常にあります。しかし、心の充実度といった面では皆さん結局我慢しています。

百貨店には包装紙がたくさんあります。商品の大きさ、都合、特性のお洋服を買う時と食品を買う時ではもちろん包装紙も違います。各売り場特性で種類が増える一方です。どうして、これだけ種類が増えているかというと、お客様のニーズなんです。

私共が今やり始めていることは仕組みからどんどん変えていこうと、包装紙の在庫を持たず、必要な分、量をパソコンで発注していくようにし、非常に無駄が削減されました。

サイズ・パターンの集約化は、増えるのは仕方ないと言いつつもやはりこれではいけないということです。これからはお客様のニーズ、今の状態を読み込みながら集約化を傾けていきたいと思っています。

簡素化もマイナスを伴う部分です。今まであったものを減らしながらエコにしていくということです。20年前はすべてのものが過剰包装でした。今の状況は少しお客様自身としては包装も昔ほどは過剰な包装を期待しなくなっています。業界としての動きがありまして、スマートラッピング推進ということが日本百貨店協会で行われています。お中元、お歳暮すべてノシをちょっと貼って、お中元などと印刷されたシールですませています。もうそれでいいというお客様の理解もされる時代になりました。

これらをやっていくには認知と理解に向けたキャンペーンが必要不可欠です。あらゆるところで、店頭、ポップ、商品のそばにマイバッグをおいて簡略化への理解を呼び掛け、カタログにも印刷しています。企業の立場からいうと本当にこのような部分でのダイナミックなマイナスというのはコストダウンになり助かる部分です。

我々は、お客様の意識を日々理解することを非常に重要視しております。ごみ有料化になったことで、例えばタオルケット、バスタオルをお買い求めになるお客様は箱は捨てなければなりませんから要りません、箱は取ってくださいと言われます。中身だけ入れてくださいと言われます。ただ、非常に大事なのが自社に対する許容範囲の把握です。企業側のコスト重視だけの論理で、お客様の許容範囲以上のことをやってしまうのはやはり失敗になってしまうのです。その許容範囲の中での簡略化をどんどん進めていく必要があるかと思えます。

次はエコを楽しみながらやっていきたいと思います。リサイクルの話から始めたいと思います。丸井今井でもスーツの下取り、靴の下取りをやっています。これは何になるかと言いますと、土地改良剤を作る燃料になるのです。こういったものを500円、1,000円で下取りしまして、購入の際の一部のお金としてご利用くださいという形で、いくつか実験としてやっています。

エコで節約ということとは、ちょっと逆行する話ですが、丸井今井はお客様の満足度を高めながら結果的にエコにつなげる意味としてmaruimen'sのリモデル、地域一番のおもてなしと圧倒的な商品の品揃えという形で、その当時試みました。お客様からもっと良いものはないのか、もっと長続きするいい定番はないのかなど、いろんな言葉を集約した結果、地域一番おもてなしと品揃えをやるという大きな柱ができました。

お金がかかってもいいから、もっといいのがないのという声が非常に多かったのです。

そこで私たちは袋についても全体のリモデルコンセプトに相応しい新しいモノを作ろうと考えま

した。画面の写真にあります。今の時代には変かかもしれませんが、かなり立派な包装紙を作りました。例えば、スーツならその形のまま折りたたんで入れることができます。靴2足入る大きさのものもあります。ただ格好よくするだけではなく、コストを意識しながらその結果、お客様の使い勝手、許容範囲を検証し、7種類あったのを4種類に減らせると、それでもお客様の満足度は変わらないだろうとし、なおかつ、このような横型手つき袋を新調しました。

更に、従来の考え方ですと素材を薄くしたりなどの工夫をして何円か下げるとい手法を取るわけですが、でも視点をちょっと変えて見てみるとそもそも百貨店の袋を再利用している人はあまり居ないと思います。家に帰ったら多くの人は捨ててしまいますよね。

それなら値段が高くなっても再利用して持ち歩いて戴けるようなモノを作ろうと。

確かに単価は上がりますが、一回きりで捨てられるより再利用してただけの事により結果モノを捨てないエコに結びつきますし、お店の宣伝にもなります。

実際の使われ方はお客様が決める事ですが、我々はこのような思いを持って包装紙・袋のリニューアルに臨みました。

ご多分にもれず、今はこういう経済環境ですの

で、果たしてこのmarui men'sが売上の、商売的に成功しているかどうかは、苦戦もしています。時代も変わっています。我々は、これでいいのだと言っている張るつもりはなく、今の時代のお客様の声を1つひとつ取りながら、また修正修正をかけながらやっていかなければいけないというふうに思っております。

リデュースは百貨店の立場から言いますと長く使える定番の良さをどんどんお客様にお伝えしていきたいと。そこで、どうせ持つなら飽きが来ず、長く使用を続けられるものというものが、昔から言われている定番という息の長い商品があります。定番には長く愛されている理由というものががあります。私がよく履いている靴は1818年から全くデザインが変わっていない靴です。そんな昔から作られているのに古臭い感じはしません。これをもう10年以上履いています。こういった定番というのは絶えず私たちの中で基本の商品として置いております。

エコは楽しみながら、我慢する必要はあるのですが、心の楽しみをしながらエコというものを1人ひとりの方、企業が取り組み、それにはお客様の意識、許容度というものを真しに受け止めながら対応していくということが結果的にエコに結び付くのではないかと思います。



事例発表③

『「もったいない」を北海道から世界へ デザインを切り口に環境を分かりやすく2006~2009』

有限会社 叶多プランニング 代表取締役

平塚 智恵美 氏



SAPPOROエコデザインプロジェクトは今年で4年目を迎えます。本業は編集・企画・デザインのプロデュースですが、いま自分が関わっている分野からこの北海道で何ができるか、若者育成を踏まえて考えました。それはアートやデザインから、社会的になすべきことがあるのではと。

思い立った4~5年前はちょうど、ごみの有料化の問題がクローズアップされ、有料化という言葉や環境ということに対して市民は理屈っぽく遠く感じた時期でした。自分たちに環境を当たり前と考え、レジ袋を減らすにはどうしたら良いのか。1人が年間に300枚貰っているといわれるレジ袋に貴重な石油が使われているのはもったいないと思いました。そして「格好のいいエコバッグ」を持つと、自然と「レジ袋要りません」と言えるんじゃないかと考え「SAPPOROエコバッグコンテスト」を行いました。今日、会場に展示されているエコバッグはその時の入賞作品です。テーマを「守るものがあるから」として作品を募集し、280点余の応募がありました。

ただ格好のいいエコバッグを見てもらえるというだけではなくて、いろいろな人たちに知ってほしいのでエコバッグ&風呂敷展を行いました。その時は280点の日本を代表する、今をときめくデザイナーたちのエコバッグも展示しました。

私たちは、北海道を守ることを大事にしようというところから始めました。作品の応募者は主婦、学生いろいろですが、やはり過剰包装が嫌で何とか自分たちもそういった流れを変えたい意識がものすごく大切だという思いが伝わりました。エコバッグや風呂敷だけでなく3Rの視点から生活全般に渡って「エコデザインアワード」を続けてほしいという意見があり、継続することが大切だと思うようになりました。いろんな人たちを巻き込みながら地場の企業と北海道のクラフト作家、デザイナーたちが手をつなぎ合いながら、ものを生み出すようなシステム作りを行っています。

最近は男性もエコバッグを持っている人が増えていて、なかなかいいなと思っております。4年前にはそういう姿はほとんど見られませんでした。男の人がエコバッグを持つようになったのは

ここ1、2年のことだと思います。2006年のコンテストで札幌市長賞の作品は札幌市のエコバッグとして使われています。また、北海道銀行賞の作品は洞爺湖サミットのエコバッグに選ばれました。私たちが関わった作品は日本の布にこだわり、デザインも縫製も印刷も勿論、札幌。made in Japanと入れています。これも地材地消、地産地消の1つの実践。北海道のものを私達で大事に使いたいという思いがあって生まれたエコバッグです。

これは楽しんでやるのが基本です。表彰式も受賞者の励みになるようにいろいろな賞を出してもらう工夫をしています。また、いろいろなデザインを北海道から生み出していきたいのですが、同時にそうした人材に北海道にいてほしいという願いもあります。それがやはりエコだと思うのです。

現在SAPPOROエコデザインプロジェクトは、夢は世界に向けて発信してと動いています。北の暮らし全般をデザインし、世界に発信できるようなシステムとブランドを作りたいというのが夢だけではなくて、実際のものとして進めております。

テーマも「守るものがある」から「生かす」。そして今年は「チャーミングなエコグッズ」で募集しました。入賞・入選作品展を毎年行いますが、会場は「わざわざ見に行く」ということではなく、とおりがりにぶらりとという感じの立地条件があう4丁目プラザにしました。ここは若者たちもよく集まる場所です。昔よく4プラに行っていた人も来てくれます。そこで若い人たちとエコデザインを通じた交流も生まれてきています。

3年前から世界に向けてということ意識しまして、世界15カ国に流通しているフィンランドのSECCOというリサイクルデザインブランドと提携しました。SECCO社の創設者であるニーナ・パルタネンさんに札幌に来てもらい、同社の製品展示とともに講演をしていただきました。SECCO賞受賞作品「エコ・テトラ」がフィンランドSECCO社で扱われるようになりました。SECCOのブランドは黒川紀章さんが最後に建てた新国立美術館の

ミュージアムショップでも販売されています。

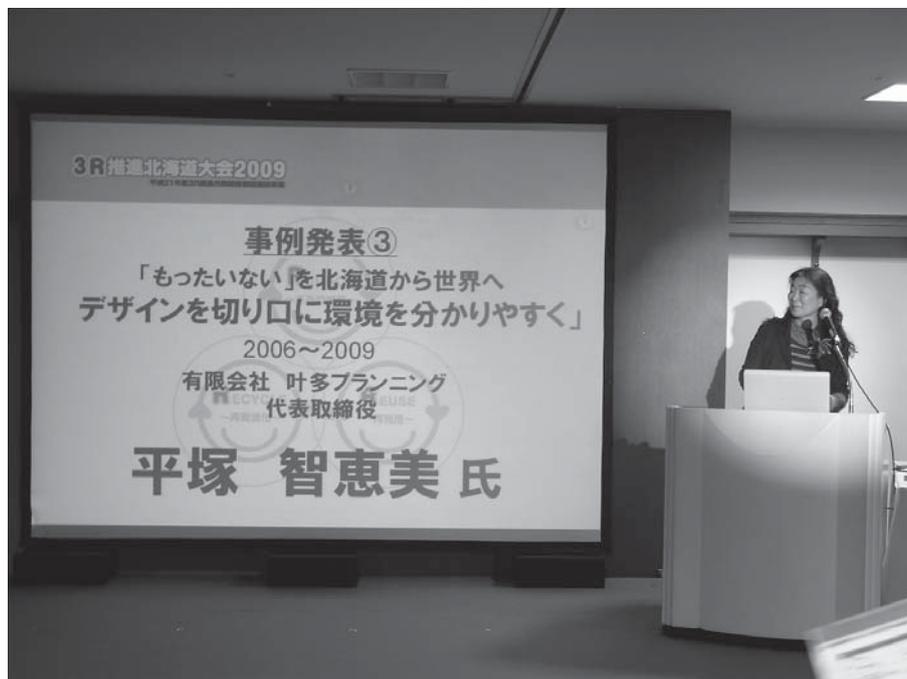
エコデザインって何？と、なかなか分かってもらうのが難しかったのですが、ステキにデザインされたグッズを見ることで、意識や発想力が変わってきているのをこの3年間で気付きます。またSECCOと連携することで、北海道発フィンランド、フィンランドから世界へと繋がり、夢が現実になるという実感を感じてほしかったということもあります。

この風呂敷は自宅の古くなったカーテンを染めたものです。向こうにあるのはパソコンの配線です。それを利用してブレスレッドや指輪にしたものです。こちらのバッグはコンビニにある肉マンの幟を裂いて作ったものです。取っ手のところが灯油の管です。左側のものは中学生が作った作品で、リボンを組み合わせてティッシュケースにしたものです。身近にあるものがデザイン力で素敵に変化する。しかも自分達にも気軽にできる。

今年4年目を迎えてエコデザインアワード、エコデザイン展も4回目になります。募集、展示、ワークショップなど全般をスケールアップして夢はミラノサローネに行くことです。北海道の技術

力のある企業と、SAPPOROエコデザインアワードを結びついて、新たな北海道グッズを発信できるシステムも昨年から模索しています。皆さんからもご意見をいただきたいと思います。楽しい玩具も手掛けています。

昨年は800点近くの応募がありました。選んだり管理するのが大変で、今年は少し絞ってやっています。今年はドイツのエコデザイン製品も見ただけです。ほかにアワードの入賞作も展示します。是非、見ていただきたいと思います。さらに古着を生き返らせるファッションショー、展示も企画しています。



事例発表④

『パッケージにおける 環境配慮について』

凸版印刷株式会社 北海道事業部 技術開発部開発課長
佐々木 永久也 氏



包装容器の設計と開発をやっています。包装容器の7割から8割は印刷会社が作っています。当社も事業の1つとして、かれこれ80年くらい包装容器を作っておりまして、日々、食品メーカーに供給しています。

低炭素社会に関しても食品パッケージのほうで取り組まなければいけないというような状況になってきました。主にリデュース、リユース、リサイクルがキーワードになってくるのですが、枯渇資源、特に石油の使用削減あるいは、元々使われているこういったような資材のリデュースをすることで少しでもCO₂を減らしてあげよう。あるいはカーボンニュートラル、カーボンオフセットということが最近言われますが、出てきたCO₂と一定段階で吸収するCO₂で相殺しようという考え方です。カーボンニュートラルは、このような食品容器を処理する際に、一定段階で吸収するCO₂でプラスマイナスゼロにしようという考え方です。この場合、CO₂を吸収する素材としては、例えば植物由来のバイオマスプラスチック、あるいは昔から使われています紙です。

まず、バイオマスプラスチックは主には植物が原料となります植物性のプラスチック、最近ですとポリ乳酸もしくは低分解プラスチックといった呼び名で一部使われている例があり、用途としては、例えばラーメンの外装ですとかMDの外装、こういったものの外側に使われているのが一般的な使われ方としてあります。

続きまして紙パッケージですが、意外と身の回りに多くありまして、酒とかジュースに使われていますEP-PAKと言われるのは25年くらい前からすでに紙化が進んでいまして、ポイントとしましては、従来のビンよりも軽くて捨てやすいということです。今ですと例えばシャンプーの容器やモーターオイルなども、このような紙パックに代わってきています。当社で開発した商品にはカートカンがあります。ほぼ金属缶と同じような形をした紙の容器と言うことです。

それ以外でも最近は電化製品の緩衝材が段ボールになってきています。段ボール系の緩衝材は、以前は小さいもの、携帯電話などの容器に入って

いましたが、最近は大型家電にも使われているということです。この角型のアイスクリーム容器もカーボンニュートラルに分類されます。

最近の開発事例では、キシリトールガムの本体のところ当社のカートカンを使っています。これで約60%のプラスチックが減っています。枯渇資源の削減、リサイクルに貢献しようとする事例です。もう1つはインスタントコーヒーの詰替用の容器です。これはカートカンの技術を利用して紙化した容器です。非常に気持ちのいい詰替作業性、かつ環境意識といった3つの切り口で作られた容器です。

今回の大会のメインテーマになります3Rに関連しますと特に包装容器に関してはリデュースがポイントになります。1つ目としては、特に廃棄する際の易処理を考えた部分ですが、食用油は普通はプラスチックのボトルですが、これは中に外側の紙パックと一緒にこのような袋が入っています、いわゆるラッピングボックスという形になるのですが、捨てる際は外箱と中の袋を分別して捨てる。

次は、これもパックインボックスの1つとして大きい18リットルの1斗缶が今なお使われていますが、当社が開発したのがTL-PAKという商品です。これは外側の段ボールと内側の袋に分かれています、廃棄する際はこれはそのまま段ボールのリサイクルと産業廃棄物になります。業務用に関してもこのようなエコ意識というのが進んでいるという現状です。ボトルのキャップを分離しやすくした商品も当社で作っています。この考え方からするとペットボトルも、3Rを考えたパッケージになってきているということでご理解いただけたと思います。

食品の3Rの取り組みのなかでも、リデュースが一番のポイントになってきます。リデュースすることで地球環境温暖化防止に貢献できますが、具体的には薄くしようということです。守るという機能を最低限がまんしつつ、どの程度までできるかということと、あるいはリサイクル法のメリットというところでは形を変えてより樹脂を少なくしようという取り組みを紹介しようと思います。

スタンディングパーツ自身は昔からボトルの代替として多く販売されてきました。シャンプーリンスなどでは詰替でないものはないというくらいになっていると思います。ボトルに比べると、樹脂の使用量が半分以下になっているところがあります。詰替使用方法の簡便化が今後の課題になってくるのではないかと思います。

以前の歯磨きチューブは安全性の面で箱入りでしたが、最近は外箱をなくしてこのようなスタンディングチューブになっているのがほとんどです。これもリデュースの取り組みの流れの1つとして挙げられます。あるいはポリチャックです。最近は、2キロの米の袋や、これはミルクココア、小麦粉などにも使われるようになってきました。

続きまして、バリアフィルムということでGLフィルムというのを作っています。これはレトルト食品に代表されるようなアルミパウチに代替できるような機能を持っており、アルミ箔の層がなくなり、CO₂の削減を図ることができる。また、軽くなりますので容器包装リサイクル法のコストを若干減らすことができます。

社会貢献型パッケージということで、ここに当社のカートカンがあります。牛乳パックの四角い容器との違いは何かということになりますが、これは金属容器の自動販売機でそのまま使えます。それともう1つとしては、紙を重量比約60%くらい使っているのですが、外側の紙ですが間伐材を含む国産材を30%以上使っています。必然的にカートカンを使うことによって森の育成と収穫してに寄与して容器を作り、トイレトペーパーにリサイクルすることもできます。

このような包装容器は普及が、どんどん促進されることになると思います。今後とも食品メーカーと共同でこのような環境向けのパッケージを作っていきたいと思っておりますので、たくさん使っていただければよろしいかと思います。



【質疑応答】

会場参加者： 詰替用のパッケージのほうがボトル入りの製品より価格が高いのですが、作っている立場としてどのようにお考えですか。

佐々木： 製造スピード、製造設備が各社とも詰替用のものが少ないのです。というのはまだボトル容器を買う人が多くて、全体の6から7割です。これが逆転すると設備投資の面も変わってくると思います。これからは低炭素化社会の中で詰替容器も広がると思います。それで国の助成金などが出るようにでもなれば、もっと安くなると思います。

会場参加者： ペットボトルはラベルをはがして廃棄していますが、直接ボトルに印刷することは難しいのでしょうか。

佐々木： 技術的に不可能なことではありません。ただ、法律によって表示しなければならない項目があり、それをクリアするには今の印刷ではちょっと難しいところがあります。また、ラベルがないとメーカーの区別がつきにくいということもあると思います。今後、商社の意識が変わってラベルなしでも構わない、簡単な表示でいいという状況になればそのような方向も考えられます。

司会： これからリデュース、リユースを推進するに当たって御社としての大きな課題は何かでしょうか。

佐々木： やはりエコ、環境意識というのが使いづらいつながりがちなので、環境に配慮しているけれど使いやすいというところが今後の大きな命題ではないかと考えています。

※パネルディスカッションに参加できない為、佐々木氏のみ事例発表後に質疑応答実施。

パネルディスカッション

『容器包装のリデュース・リユースをさらに推進するには…』

コーディネーター

(有)ボイスオブサッポロ 代表取締役 橋本 登代子氏

パネラー

3R推進マスター／環境カウンセラー 和田 由貴氏

(有)ラッキーピエログループ 代表取締役社長 王 一郎氏

(株)札幌丸井今井 総務部 中西 弘行氏

(有)叶多プランニング 代表取締役 平塚 智恵美氏



橋本：



まず、皆さんアトリウムをご覧になり、リデュースとかリユース、リサイクルを身近な問題に捉えられたでしょうか。先ほど北海道では3Rという言葉で40%の方しか知られていないということで、ちょっとショックでした。環境サミットもあったのになと思うのですが…。

和田： 以前は環境省でもCMなどでPRもしていたと思いますが、まだまだなんですね。これから、頑張らなければダメですね。

橋本： 王さん、函館は3Rの意識はどうですか。

王： 洞爺湖サミットがありましたから、それをきっかけに非常に函館市は盛り上がっている状況です。今、私共の店に全国からお買い物に来られるときにビニール袋がついていないということに驚かれます。函館のスーパーに行きますとほとんどついていません。ビニールというのが恥ずかしいくらい状況になっています。函館はものすごく進んでいますので、一度スーパーで買い物をしてみてください。

橋本： ラッキーピエロさんがエコに意識があるのは、魅力のブランドにもなるかもしれませんね。

王： お客様へのアンケートでも、始めた当初はほとんど出てこなかったのですが、3年

くらい経った頃から環境についても取り組みはすてきですねというお客様の声が出始めまして、今ではすごいねえと、お誉めをいただくようになりました。生活者の環境意識がどんどん高まってきているように思いました。

橋本： 中西さん、個人的には日々の家庭生活での3Rはいかがですか。

中西： 物を捨てない、大事に使うということは心がけています。さきほどの40%は知らないということですが、私はこの数字はそんなに悲観したものでもないと思います。北海道は自然が豊かなので他の地域と比べると切羽詰った感覚は薄い土壌があると私は思います。



もし、北海道の人が他の地域と同じ局面に置かれた場合、もしかすると他の県より意識は高くなるのでは、と思います。

王： 私は北海道のCO₂の順位が29番目ですから、これはちょっと誉め過ぎかなと思います。真ん中より低いのですから私たち道民はもっと盛り上がらなければいけないと思っています。

橋本： 中西さんは百貨店に勤務されていてお客様の反応は確実に変化していると。

中西： そうですね。変わっております。やはり乖離があるとだめで、楽しもうということ

が、先ほどの事例発表全部に共通していると思います。その部分を大切にしながら企業は頑張っているところです。

橋本： 平塚さんのテーマもそうでしたね。楽しもうよと。

平塚：



何か楽しみながらやらないと、地球がだめになるなど、この先どうなってしまうか不安になりますが、一歩ずつやっていくと前に進めるのではないかと思います。

家庭内でも女性が頑張っていますよ。台所からの頑張りはすごく大事だなと思っていて、台所から政治が生まれていると思います。ですから、まず女性層を集めて訴えかけることが大事です。

橋本： やはりそういうことを楽しめるということが人間の知恵であって、そこが人間の魅力でしょうね。和田さん、リユース、リデュースと言っていますが、もっとプッシュして日常生活の中に入ってくると意識も変わると思います。それからよく環境問題は10人の専門家よりも1,000人の一般の人と言われます。皆で一緒に気持ちを1つにしなければいけないですね。

和田： そうですね。ごみの問題と言うのは、やはり行政もそれなりにやらなければいけないことがあるし、事業者も物を売ったりするわけですから、そういったところの意識も大事ですし、私たち1人ひとり消費者も加わり、3つが協力していかないと解決しませんね。どこか1つだけが頑張っているだけでもダメですね。

橋本： 札幌市がごみ有料化になって、最初はブーイングがあったのですが、慣れてきたら全然もう嬉しいですよ。紙が資源ごみになったりするの嬉しいですね。

平塚： 最初のうちは、なぜこのごみが燃えるごみなのか納得できなかつたりしながらも毎日、カレンダーで今日は何かが楽しみだったりしますね。そして、ごみが減りましたね。

橋本： そう、減るのも嬉しいですね。意識するからでしょうか。分別するからでしょうか。

平塚： それと、ペットボトルがあるとしたらボトルのラベルは資源ごみになってボトルと分けます。やはり分けるときに考えているんですね。自然とこれは再利用するものとか。考えるよいきっかけにもなったかと思っています。

橋本： それこそ、私たち1人ひとりが参加しているということですね。

和田： 参加していますね。参加して意識が高まっていくということは物を買うときとか、選ぶときにも影響してくると思います。やはり、同じ物を買うのでも分別しなければならいとなると、分別しやすい物を選ぼうとしたりとか、そういったところにも意識がいくことなので、有料は痛いかもしれないませんが、そういう面ではやはりメリットではないかと思っています。

橋本： 中西さん、お客様から小さい包装への要望があるということは、やはり意識が変わってきたのでしょうか。会場の皆様に伺いますが、マイ箸をお持ちの方どれくらいおられますか。(挙手確認)ああ、優秀ですね。それではマイボトルをお持ちの方は。これも結構おられますね。それからマイバッグをお持ちの方。あ、男性もおられる。すてきですね。それだけで株が上がりますね。女性から見て、平塚さんいかがですか。

平塚： 4年前には考えられなかったですが、最近は男性が多くてしかも年配層で会社の役員になっていそうな人が持っていて、部下の人が驚くようなことがあって逆に刺激を与えて、それは大事だなと誉めてあげたい気持ちになります。

橋本： 中西さん、王さんはマイバッグをお持ちですよ。

王： はい、いつもスーパーに行く時は誰もレジ袋を貰わないので、持たなければ恥ずかしい状態です。私共の店でお食事をする時に、マイ箸を持ってくると5円引きにしてそれを店内募金にしています。カレーを買う時に自分の入れ物を持ってくると4枚分、20円引きです。このお金を貯めてブナの木を植樹しています。お客様の参加意欲を盛りたてるために、わざわざ目の前で1回ずつ店内募金をやっているのです。これが参加意欲を盛りたてるのですね。

植樹は5年やりまして750本植えまし

た。海辺の清掃はもう10年前からやっていますから32回くらいになります。やらなければ、ちょっと気持ちが悪いくらいになってしまいました。皆、楽しくおしゃべりしています。おしゃべりのついでに植樹、清掃なんです。

橋本： 中西さん、今の王さんのお話を聞いていて、お客様が自分たちから参加してくるという方向に百貨店ももっていくというのも1つの方法かもしれないですね。

中西： そうですね。簡易包装や省略化が受け入れられたりするには誰かが1つ垣根を飛び越えなければならぬのです。飛び越えてあとは組織ぐるみでやるようにする。我々が成功するということはお客様に支持されるということなので、王さんのお話のようなことは本当に素敵なことだと思います。

橋本： 皆さんで足並みそろえてリデュース、リユースというのは、いま百貨店ではどんな雰囲気ですか。

中西： 最近の最たる例はスーパーの袋の有料化です。あれによって我々の売れ方もがらっと変わってきました。我々は物を売る商売ですので、お客様に響く素敵なマイ箸を日本ハムの稲葉選手たちが使って折れたバットを素材にして「かっとばし(箸)」というような箸を作ったりした事例があります。

今、会場におられる若い女性の方、環境などに興味を持って入場されましたか。トートバッグがかわいくて欲しいというのが理由の参加でもいいのです。それを持って生活することが基本的にエコになるということになれば、それは商品を通してエコに結び付きます。

橋本： 今よりも少しずつ広がっていくことが今の大きなテーマだと思います。そういう意味では函館ではラッキーピエロさんが頑張っていますが、ほかの店はどうなんですか。

王： 私共が10年前から始めた頃は、私が取引業者にお宅の段ボールはお宅で回収してください、社会責任ですと64社に文書を出しましたら、それに応えたのは3社だけでした。つまりそれくらいのレベルです。

私たちは社会に貢献しながら社会に迷惑をかけている。迷惑をかけている部分をいかに少なくするかというのは、もうすでに社

会責任になっていると思うのです。私は環境に取り組むことが促進要因であると思っています。つまりエコをすることがコストだと考えている人は阻害要因と考えているわけです。そんな古い考え方の人はもう消費者に選んでもらえない時代がきていると私は思うのです。

環境に取り組むことがマーケットが広がって、売上が伸びていくかもしれない。そういう思いで挑戦して社会的責任を少しずつでもできる範囲内で果たしていくというようにしなければ、もう危ないのですから。

和田： 大半の企業は残念ながらやはり売上重視というか、容器包装に関しても売れるほうがメインになってきますね。やはり消費者の立場からしても、できるだけ簡易包装の物とかを普及させていくというのは、私たち消費者1人ひとりの物の選択というところも非常に重要なことになってくると思うのです。



橋本： 先ほどの和田さんの基調講演で印象に残っているのは、リデュース、リユースを意識した目で1個ずつ買っていかなければ企業にも響かないだろうし、社会も変わっていかないということでした。また、会場からの質問で、どうして詰替用の容器のほうが高いかという疑問が出されました。それでお客はボトルのほうを買っていくので、詰替のほうは、まだ工場の製造設備が進んでいないということでした。

和田： 製造コストの問題のようですね。ボトルで売るほうが、その製品を普及させるためにはどうしてもそっちをセールにしたがるみたいですね。すると、次に詰替を買う時にも次の購買につながってくるわけです。でも結局のところ私たちが選ぶからそちらが安くなってしまうところがあるんですね。

橋本： そういう意味ではテレビコマーシャルでメーカーが詰替容器を積極的に買いましょうと言ったとしたらすぐにそんな気になるように思うのですがどうでしょう。

和田： でもメーカーも一応努力はしていますね。

詰替容器なども詰替しやすいものが出たり、洗剤でも詰替口のところが漏れてこぼれないような構造になっているなど、いろんなものが出ています。そういったものをどんどん普及させ、安く手に入れるためにもどんどんそちらを選んでいくことも大事ですね。

橋本： そうですね。平塚さん、今の話を聞いていかがですか。消費者が選ぶということが世の中を少しずつ変えていくのだということですが。

平塚： 私もそのことを感じます。以前は曲がったキュウリは買わないとか、形がきちんとしているものでなければ流通しないとかがごく当たり前でした。最近はだんだん曲がっていてもいいとか、無農薬の有機栽培のものがいいというので、店側がそれほどアピールしなくても消費者の意識が変わってきているように思います。

王：



私共もすべてエコ商品にしたいのですが、値段が2倍、3倍のものは使いません。だから、できやすいものから、例えば1円のもが1円30銭ならやりま

しょう、5円だったらまだ待ちましようなんです。皆さんがそうしてくると大量生産でエコ商品も安くなる時代が多分くるだろうと思います。入り口は1円が1円30銭でもいいではないかということで使っているわけです。これはその気構えと言うか、執念がないと広がっていかないのではないかと心配しています。

橋本： そう意味で、リデュース、リユースが進んでいる外国はどうなのでしょう。私たちの意識が大事だと言っておいて何ですが、行政がちゃんとリードしてやってくれたら、ちゃんと従うのにと思ったりします。進んでいると言われるドイツの事例などはどうでしょう。

和田： ほとんど飲み物などはリターナブルびんなどに入っていますし、肉や魚もほとんど量り売りです。元々、包装容器がないですし、環境教育がすごいですね。子供が小さい時から分別の指導をしたり、学校の授業に組み込まれていたりします。日本でもそ

ういう取り組みが増えてはきていますが、まだまだかなと思います。また、子供よりも大人の意識が低かったりというところもありますね。

橋本： フィンランドはいかがですか。

平塚： 外国の話ですが、ドイツでは仕分けがおしゃれですね。ごみの入れ物にしてもおしゃれです。また、曜日が決まっていらないですね。いつでも決まった場所に入れると持って行ってくれるようです。フィンランドですが、最低限のごみを捨てる時は全部一緒に捨てるのです。燃えないごみ、燃えるごみ全部一緒です。どうするのかと思ったら機械がセンサーで分けてくれるのです。最低限のマナーはありますが、ごみの分別は自治体でやってくれます。どちらがいいのかと思うと、若い人はフィンランド方式がいいと思うと思います。

橋本： そろそろ皆さんからご質問をいただく時間になりました。せっかくのチャンスですから挙手をお願いします。

会場1： 17歳です。今まで話を聞いていて、ごみの分別は札幌は厳しくなって、そのことによって今までより分別して、環境に配慮しなければいけないのだと改めて思うようになりました。

会場2： 国の違いというのを感じました。

会場3： 札幌は有料化になってからは分別して曜日にも決められました。月に1回のごみは捨てるのを逃してしまうこともあります。室内の台所に置くしかないのです。いっぱい溜まってしまいます。それでスーパーのトレイなどは皆置いてきて、買ったものは自分の袋に入れてきます。その辺をスーパー、デパートで考えていただき、希望しなければトレイをはずしてくれるとかしてもらおうといいかなと思っております。



橋本： 最近回収ボックスもありますが、その辺を和田さんお願いします。

和田： 行政の問題もありますが、私たちができることをしていくとうことも、やはり大切なことになってくると思います。一度、家に持ち帰っても洗って乾かしてそういうところに入れるというのはどうでしょう。私は買い物用のエコバッグに洗って乾かしたトレーを入れてスーパーのボックスに入れるようにしています。

会場3： それもやりますが、時間のむだのようになります。洗う水道代もかかりますし。やはりそれであれば昔のように魚であれば紙に包んで構わないわけです。店側がそのような考えに戻ってくだされば、すごく助かります。

和田： 最近、少しはそのようなことが増えてきていますね。スーパーだけですと洗わないトレーが山積みになってしまいます。それで最近肉も直接袋に入れて売っていたりもしますね。量り売りも増えていきますから、もっともっと浸透すると思います。

橋本： 私たちが暮らしの中で容器包装ごみを減らすためにリデュース、リユースの観点からどうやっていけばいいのでしょうか。

平塚： 今のお話は本当に、もっともなこととお聞きしました。私もそうしていますが、例えば魚を買う時はタッパーのようなものを持っていくようにしています。王さんが海辺のごみ拾いの話をされましたが、発想の転換で、海辺でのごみ拾いではなくて砂浜美術館を作ろうとかでいくと、集めたごみがオブジェになって砂浜美術館ができて、楽しんでから片付けようかというように、ちょっとした言葉や発想の転換で人を誘えたり巻き込めたりできるのではないかと思います。

中西： 魚のトレーの話ではないですが、もっともな意見だと思います。それをそこで終わらせないでいかに形にするかというところが本当は一番難しいところだと思うのですが、我々自身も要するにもっともな意見をいかに形にするか。これは自戒をこめていっているのですが、大抵はできていません。リサイクルのほうが高いということもそうです。理由はあります。でもそれは企業側の都合でなんですけど、私もここで皆さんのご

意見、ご指摘を真剣に考えていくべきであろうと思います。

王： 私たちが生きているということは、毎年11トンものCO₂を出していると言います。それをチャラにして死にたいと思っております。植樹を30本やるとチャラになるということです。私たちは被害者でもあり、加害者でもあるというところがとても難しいところで、個人も企業もやはり私益から会社益から国益からもっと地球益、人類益というところに視線を合わせながら、ハチドリのひとしずくになってできることを少しずつ私たち皆で一緒にやっていくことが健康的な地球になって、私たちが自然からいっぱい与えられているということを実に謙虚に、傲慢にならないようにしなければいけないということを肝に銘じていかなければ、私たちが孫に対して大変申し訳ないと考えております。

橋本： ありがとうございます。和田さん、まとめていただけますか。

和田： 先ほどもお話に出ていましたが、レジ袋の有料化が北海道では洞爺湖サミットをきっかけに一気に進んだということを伺って、ちょっと感心してしまいました。東京だったら絶対にそんなことはうまくいきません。プーイングの嵐だと思うのです。

そういったことをすんなり受け入れられる土壌と言うか、地域性ですね。そういうのが本当に素晴らしいと思いますし、また、北海道の皆さんは地域愛というか自分の故郷を愛する気持ちが大きいと思いますので、これからも北海道の自然を守るためにごみの減量にぜひ取り組んでいただければと思います。

橋本： 北海道はクリーンとかグリーンというイメージがものすごくありますものね。北海道からこの容器包装のリデュース、リユース、リサイクル、エコの発信は不可能ではありませんね。

和田： これから日本の中の、ここが一番と言えるくらいに頑張ってください。

橋本： 最後にエールをいただきありがとうございます。限られた時間と人数の中でいただいた皆様のお気持ちはものすごく大事だと思います。容器1個1個を気にすることが、隣の人を気にすることにつながります

ね。1人ひとりを大事にしていくというようにつながって広がっていくと地球がぎすぎすしていなくて、人間的にやわらかく豊かになる。だから容器包装、地球を考えようと言うのはものすごく私たちにとっていいテーマではないかと思いました。



閉会挨拶

本日はお忙しい中、お休みの中、御参加いただきましてどうもありがとうございました。11時から16時までほとんど休みなしでスケジュールを設定させていただきましたが、まだ時間が足りないくらいかなと、大変盛り上がっていたのではないかと考えております。ありがとうございます。

ディスカッションの最初のあたりで3Rを知らない人が北海道では40%、60%の人は知っているけれども40%の人は知らないということでしたが、実は全国平均は45%くらいです。50%近くの人が知らないということなので、北海道の場合はサミットの効果もあったのでしょうか、ちょっと知っている人が多いという状況にはあります。とは言いながらも5%くらいなのでより多くの人には知って頂きたいと考えております。

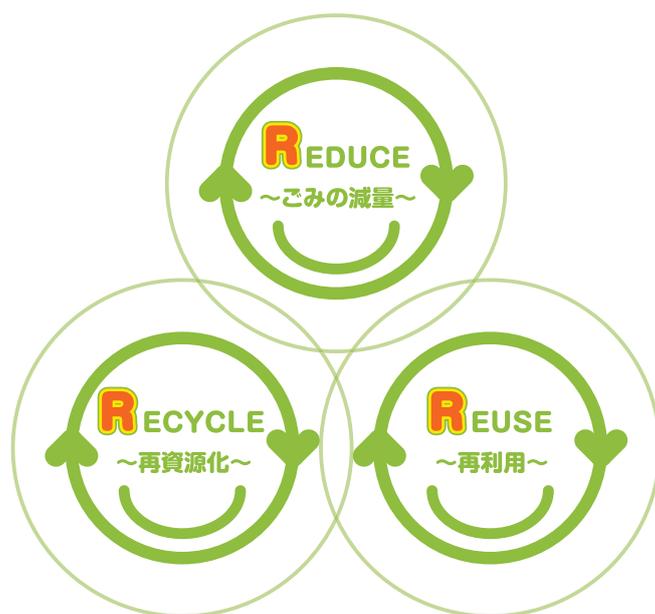
ただ、3Rという言葉を知らなくてもごみの削減であるとかCO₂削減に取り組んでおられる方はたくさんおられると思いますので、知っているからよい、知らないから悪いということではないと思います。

今日のディスカッションでそれぞれの講師の方々からいろいろなアイデアをいただけたかと思っております。入り口は何でもいいからまずやってみようということと、まずは環境保全に取り組んでいる企業を評価していこうと、そういう面で私個人としても大変勉強になったと思っております。本日は、長時間にわたりまして橋本様、和田様、王様、中西様、平塚様どうもありがとうございました。これを機会に私共事務所も3Rの普及啓発にますます精進していこうと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。本日は、どうもありがとうございました。



環境省北海道地方環境事務所
統括環境保全企画官

竹安 一



平成21年12月

環境省 北海道地方環境事務所 環境対策課

〒060-0808

札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎

TEL 011-299-1952

FAX 011-736-1234

委託機関 (株)セレスポ 札幌支店

〒003-0809

札幌市白石区菊水9条西3丁目5-13

TEL 011-821-1810

FAX 011-821-1811

本事業は、環境省北海道地方環境事務所の委託により実施したものです。【禁無断転載】

この用紙は、環境にやさしい再生紙(R100)・植物性大豆インキを使用しています。